

—その他—

最近の英語辞書事情

英語論文を書くために

中村 哲子

日本医科大学英語教室

The Benefits of Using English Dictionaries in Writing Academic Papers

Tetsuko Nakamura

Department of English, Nippon Medical School

Abstract

Japanese writers of academic papers need to make effective use of as many English dictionaries as possible in order to select appropriate and idiomatic expressions for their writings. The increase in the number of dictionaries available in electronic form allows quicker and easier reference to example sentences, which in turn provides writers with increased opportunities to familiarize themselves with natural English.

(日本医科大学医学会雑誌 2007; 3: 152-155)

Key words: English dictionaries, writing academic papers

はじめに

医学・医療に関わる分野において、英語による情報発信が必須となっている昨今、若手の医師はもとより学部生も国内外の学術雑誌に英語論文を発表する機会に恵まれるようになってきた。電子ジャーナルの普及に伴い、広範囲に、しかも迅速に自身の論文が多くの研究者の目に触れるようになってきたことは歓迎されよう。しかしそれは同時に、内容についてだけでなく、その英語の文章も多様な読者の目に晒されることを意味し、日本語母語者としては、論文内容に見合ったレベルの英語で情報発信を行いたいところである。

自然科学の分野では、きわめて限られた時間の中で研究成果を公表することが求められ、必要十分な内容をすばやく英文でまとめ上げることが第一義となる。しかし、時には立ち止まり、自身の英語表現力を高め

ることを意識しつつ、言葉の微妙なニュアンスの違いを体感する時間を作ってみるのはいかがだろうか。

本稿では、英語を教える立場から、英語論文を書く際に利用できる英語辞書の最新事情を交えながら、その活用法の一端を紹介したい。

和英・英和・英英辞書

英文を書く基本は、1) 意図する意味を表す単語を選び、2) その単語がその意味を伝える前後関係を持つように表現を組み立て、3) 文全体を文法にのっとった、妥当な文構造を持つものに仕上げることである。その積み重ねが、1つのパラグラフ、セクションやチャプター、そして論文となるが、そこでは、文と文をつなぐ論理や表現が滞りなく流れることが必要となる。辞書の出番はというと、何とんでも、基本となる1つの文を書く場面においてということになる。

Correspondence to Tetsuko Nakamura, Department of English, Nippon Medical School, 2-297-2 Kosugi-cho, Nakahara-ku, Kawasaki-shi 211-0063, Japan

E-mail: tetsuko@nms.ac.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

意図する英単語が思いつかない場合、あるいは知っている単語以外の言い方を探したい場合、和英辞書にあたるのが時には必要となる。和英辞書に関しては、何よりも大型のものを利用することを勧めたい。というのも、中型和英辞典の種類はかなりの数に上るが、見出し語の数が限られているだけでなく、該当の英単語がどのような文脈で使用されるかについての情報が不足しがちなためである。幅広い意味を持つ日本語の語句について、英単語の候補が少なければ、意図する意味とは若干ずれたニュアンスの単語を選ぶ可能性が高くなる。これを防ぐためにも、1項目に多様な英単語が挙げられ、その単語の用例を多く含む次の辞書を活用してほしい。

1. 『研究社新和英大辞典』第5版 2003年 研究社。
⇒ 伝統ある和英大辞典の最新版。見出し語13万、複合語10万、用例25万。

例えば、この和英辞書で「実験」を引いてみれば、この語を用いてよく使われる日本語表現が、英文で掲載されている。また、基本的な実験用器具の名称が図入りで示されてもいる。それ相応の情報が得られると行ってよいであろう。

和英辞書に掲載されている表現の妥当性は、英和・英英辞書を十分活用して、必ず吟味することが肝要である。使用する単語の意味の再確認は当然ながら、その意味を表現するための前後関係が英語として成り立っているか、また、よく使われる表現なのかを確認することは、頭で理解している以上に重要だと言ってよい。

ここで具体例として、「この報告は委員会決定の背景について概略を述べるものである。」と書く場合を想定してみたい。“This report outlines the background to the decision provided by the committee.”となろうが、backgroundまでは特に問題がないとして、前置詞toについてはどうだろうか。即座に思いつくであろうか。1.の和英辞書で「背景」を引き、該当する意味の項目に目を通して、前置詞の情報は見当たらない。それならばと各種英和辞書にあたってみれば、「～の背後にある事情」、「～という背後の事情」、あるいは「～に関する背景事情」といった意味でof～、on～は記載されているが、to～はないことがわかる。ここで用いた辞書は、社会人が使って然るべき次の6冊である。

2. 『研究社新英和大辞典』第6版 2002年 研究社。
⇒ 大型辞書。伝統ある英和大辞典の最新版。総収録項目は26万以上。第5版より語法・類語解説が充実した。

3. 『ランダムハウス英和大辞典』第2版 1993年 小学館。⇒ 大型辞書。米国ランダムハウス社刊の辞書を基に英和辞書として編集されたもの。34万5千語を収録。
4. 『ジーニアス英和大辞典』2001年 大修館書店。⇒ 大型辞書。いち早く電子辞書を通して普及した大辞典。25万5千語を収録。文法・語法解説が充実している。
5. 『リーダーズ英和辞典』第2版 1999年 研究社。
⇒ 中型辞書にもかかわらず収録語数が27万ときわめて多い。ただし、語法解説や例文が限られている。
6. 『グランドコンサイス英和辞典』2001年 三省堂。
⇒ 中型辞書。総収録項目36万。人文系、理科系の専門用語を幅広く収録するが、語法解説や例文が限られている。
7. 『プログレッシブ英和中辞典』第4版 2003年 小学館。⇒ 中型辞書。12万語を収録し、文法・語法情報、例文が充実しており、日常的に利用したい辞書。

大辞典から中辞典までを挙げたが、それぞれに特徴があり、刊行年も考慮に入れて適材適所で利用したいものである。

英語を書く(話す)上で必要な用法の情報が、英和辞書において網羅的に示されているわけではないことが、backgroundの用法例から認識されたことと思う。そこで、非英語母語者向けの辞書として定評のある、次の英英辞書(いずれもCD-ROM付)に目を向けてみたい。

8. *Collins Cobuild Advanced Learner's English Dictionary*, 5th ed., 2006; HarperCollins, New York.
⇒ 初めて言語コーパスを利用した1987年初版の辞書の最新刊。語義の使用頻度にこだわった編集を貫き、独特な語義解説によって日常的な用法がわかりやすく示されている。収録語数が9.や10.より若干少ない。
9. *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 7th ed., 2005; Oxford University Press, Oxford。⇒ 伝統ある1冊。広範な語義を掲載し、その解説は簡潔で平易。
10. *Longman Dictionary of Contemporary English*, 4th ed. with Writing Assistant, 2005; Longman, Harlow。⇒ 文法情報が記号で示され、その使いやすさが長く評価されてきた辞書。

backgroundについて、該当語義の説明と用例がどのようなになっているか、この3冊から引用してみたい。

いずれも第2語義として挙げられているものである(下線は筆者による)。

8. The **background** to an event or situation consists of the facts that explain what caused it. ◇*The meeting takes place against a background of continuing political violence.* ◇. . . *background information.*
9. The circumstances or past events which help explain why sth [something] is how it is; information about these. ◇*the historical background to the war* ◇**background information/knowledge** ◇*The elections are taking place against a background of violence.* ◇*Can you give me more background on the company?*
10. The situation or past events that explain why something happens in the way that it does: [+to] ◇*Without knowing the background to the case, I couldn't possibly comment.* ◇**against a background of sth [something]** *The peace talks are being held against a background of increasing violence.* ◇**background information/details/data etc** *The author included a new chapter of background material for the second edition of the book.*

8.では、語義解説の中に、用法の情報が含まれており、事象を引き起こす背景という意味で前置詞toを用いることが基本として示されている。9.の説明ではその点が明確とは言えないが、用例がそれを補っている。また、ofとonの使用例が併記されており、前置詞の違いによって意味が異なることが理解できる。10.においては、語義説明に続いてtoが通常使われる前置詞であることが明白に示されており、その直後に典型的な型を持つ例文が挙げられている。このほんの1例からでも、英英辞書こそが現在使用されている典型的な用法についての情報を明確に提供しており、その解説もわかりやすいものであることが理解していただけたと思う。

英英辞書というと、北アメリカで普及している次の辞書を愛用している方も多いのではなかろうか。

11. *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, 11th ed., 2003; Merriam-Webster, Springfield.

しかし、この辞書は英語母語者用に編集されたものであるために語義解説が簡潔すぎ、また、用法の説明や例文なども限られているため、必ずしも有効とは言えない。

ここまで、各種辞書を適材適所で利用することの意

義を明らかにしようとしてきたが、1.~11.の辞書の中で7.以外はすべて本年大手メーカーの電子辞書上で利用可能となり、平行させて臨機応変に活用できる環境が整った。冊子体と相違はあるものの、CD-ROMと比べても携帯しやすく、電子辞書ならではの活用法を考慮に入れると、英文を書いたり話したりする際、気楽にアクセスできる機器として最大限利用したいところである。

多くの用例に触れるために

電子辞書の利点のひとつは、多くの用例に目を通して、自身の書いた文が意図する意味を表しているか手軽に確認できる点である。複数の辞書の例文全体から、使い方を確認したい語句を検索することで、いかなる用法が英語として典型的なものであるかが調べられる。用例を眺めて妥当な表現がどれかを吟味する作業が重要であることは、大いに認識すべきであろう。この例文検索機能を利用して、先のbackgroundについても、to, of, onそれぞれがどのような文脈で使われているのか掴むことができる。用法に迷いがあるとき、どちらを取るべきか判断したいときに有効なのは言うまでもない。検索例文が多すぎる場合は、he, she, youなどの人称代名詞を検索語に加えることで文例数を抑え、効率よく情報を確認すればよい。

表現の妥当性について大局的に判断したい場合には、インターネット検索エンジンの利用もお勧めだ。一連の表現をフレーズとして検索に掛け、そのヒット数や実例を参考にすることが可能である。非英語母語者の文章によるサイトも多いため、慎重になるべき側面もあるが、どちらの表現を使おうかと迷うとき、英語としてこなれた言い方についての判断材料を提供してくれると言ってよい。ちなみに、先の8.~10.でのbackgroundの語義解説では、background informationという表現が定番のものとして挙げられている。実際“present(s/ed) background information on”という表現をインターネットで検索すると、5万以上のヒット数を数え、頻繁に用いられる表現であることが確認できる。

ここで、用例を探したり、類義語やその使い分けを調べたりする際に有効な辞書も紹介しておきたい。

12. 『新編英和活用大辞典』1995年 研究社。⇒ 単語が慣習的にどのような語句と結びついているかを例文によって示したもの。日本語訳が併記されているため、利用したい英語表現が探しやすい。電子辞書版もある。

13. *Longman Language Activator*, 2nd. ed., 2002; Longman, Harlow. ⇒ 類語の使い分けがわかりやすく説明されている。巻末の索引から該当する単語を引く方式を取る。電子辞書版もある。
14. *Roget's International Thesaurus*, 6th ed., 2002; HarperCollins, New York. ⇒ 数ある類語辞書の中で最大級のものであり、幅広く類語を探す際には有効。索引から該当語句を調べる方式を取る。用法については 12. や 13. , 各種英和・英英辞書の利用が必須となる。

おわりに

ここ 10 年ほどで、辞書を取り巻く環境は激変した。CD-ROM 版が一般化したかと思いきや、今や大型辞書が電子辞書に搭載され、多くの情報を常に携帯できるようになった。腰を据えて英語を読んだり書いたりするときだけでなく、英語で即座に対応しなければならない場面でも利用できる電子辞書は、非英語母語者にとって大きな味方だと言ってよい。

医学・医療の専門家には欠かせない医学辞典につい

ては、例えば、和英索引も含む『ステッドマン医学大辞典』（改訂第5版 2002年 メジカルビュー社）の最新電子辞書版を利用すれば、厄介な単語の発音も音声で確認できる。『医学英語文例辞典』（朝倉書店）も昨年末に新版が刊行された。また、多種多様なオンライン辞書の存在も忘れてはならない。国内外の会員制サイトから無料で自由に利用できるサイトまでいろいろあるが、とりあえずは、該当語句と definition や meaning といった単語をキーワードとして検索し、上位の辞書サイトをサーフィンしたらいいだろう。いくつか当たると同時に、好みのサイトを発見できるはずである。

自分の利用する辞書が何であり、それが辞書としていかなる位置にあるのかを意識せずに使っている向きもあろうかと思う。より有効な辞書が手軽に利用できることを知らず、後になって残念な思いはしたくない。そのためにも、新たに登場する辞書情報にアンテナを張りながら、各自の用途に合わせた辞書構築を日頃心掛けたい。自分の英語の面倒を見る体制を自ら整えていくことの意義を、再認識したいところである。

（受付：2007年5月9日）

（受理：2007年5月31日）